



大麻西小「学校だより」第12号

令和6年2月7日(水)

あ かるく たくましい子ども
さ えあう やさしい子ども
に げずに やりぬく子
し んけんに 学び合う子ども



大麻西小学校 ホームページ
<https://www2.ebetsu-city.ed.jp/asanishi/>

今年度のキーワード～ **子どもたちと職員笑顔があふれる学校**

12月にご協力いただきました「共育スタッフアンケート」と1月に行われました「学校関係者評価」の結果をお知らせします。ご協力いただきありがとうございました。

令和5年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和6年1月16日 江別市立大麻西小学校

1. 本年度の重点教育目標

◎夢や目標に向かって ねばり強く挑戦する児童の育成
～“チームあさにし”として子どもの未来を組織的に語り合える教職員～

2. 自己評価結果に対する学校関係者評価 ※評価項目に書いている数字はグランドデザインに対応

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	◎子どもの未来を組織的に語り合える教職員 ・教職員一人ひとりが参画している学校 ・チーム“あさにし”として動ける学校	○	今後も日常的に相談し、組織的に動くことができる学校を目指す。目標達成に向け、新年度計画に達成のための具体的な手立てを記載する。	○	○
	⑨地域・家庭・学校が三位一体となった学校経営 ・PTA活動や地域との連携体制を深めている学校 ・学校運営委員会(学校関係者評価)を通じ、地域と連携した教育活動への理解・協力を得るとともに、本校の教育に対する意見や考えを学校経営に生かしている学校。	○	学校が目指している資質・能力の向上は何かを共有してもらおうよう、取組や成長をしっかりと発信する。また、懇談や会議、日常の会話を大切に、児童の様子や保護者の願いをしっかりと受信していく。	○	○
教育課程・学習指導	①不断の改善を目指す教育課程経営 ・つきたい力を明確化し、教職員の「創意と総意」により教育活動を推進する学校	○	次年度計画を作成する際には、学校教育目標を達成するための具体的手立てやつきたい資質・能力をより明確にすることを全教職員で確認する。	○	○
	②学びに向かう力を育てる学習指導と授業改善 ・目標に向かって粘り強く取り組み、楽しみながら学ぶ子ども ・基礎を身に付け、活用する力を身に付けた子ども ・見通しを持って学び、考えを伝え合うことができる力をもった子ども	○	家庭学習に関しては、発達段階や児童の様子を的確に把握し、指導の充実に努める。中学校区の家庭学習の取り組み方を意識し、ICTを活用し充実を図る。ねばり強い児童の育成のために、課題や問題への取組方を指導し、成功体験を多く積ませる指導を行う。	○	○

	③GIGA スクール構想の推進と教職員の資質向上をねらう校内研修の推進 ・ICTを活用した授業改善を図る学校	○	ICT研修とあわせて実践交流、研究授業等で効果的な活用についての研修を深めることができた。授業の中での活用の機会も広がってきている。今後も引き続き、授業改善に向けて研修を深めていく。	○	○
	⑤特別な支援を要する子どもへの手立てと校内体制 ・特別な支援を要する子に寄り添った学校	○	今年度と同様、校内支援委員会や児童理解交流会を活用しながらチームとしての学校体制づくりを行っていく。	○	○
	○素晴らしい事象や文化に感動し、情感を高める教育の推進 ・文化的な活動が充実した学校	○	読書活動については、先生方の「おすすめ本紹介」や数値の提示、賞状などで意欲づけを図った。次年度も意欲を高める方策をとる。	○	○
生徒指導・体力向上・健康教育	⑥人間性を育てる心の教育 ⑦自己実現を支える生徒指導 ・たくましく未来を切り拓く力を培った子ども ・社会規範や公共意識をもち、自己指導能力をもった子ども ・自発的・主体的な子ども ・自分で決定できる子ども ☆大麻8ルールの重点を意識	○	・大麻8ルールの反省を行い、実態を把握する。結果を次年度の重点に反映する。 ・子どもたちの言葉により耳を傾け、場に応じて適切な言葉で話したり、適切な言葉で書いたりするように指導する。 ・児童会と連携した挨拶運動を来年度以降も取り組みを続けていく。	○	○
	⑧自他を守る健康・安全・美化指導 ・「体力づくり」のための意識の高揚と行動を習得した子ども ・心身共に健やかな生活を築くための知識や行動を習得した子ども	○	体力向上の計画をもとに、日常的な声かけ、子どもが身体を動かすことのできる場づくりの充実に努める。年間を通してできる縄跳びを次年度も継続して行う。	○	○
小中一貫	④小中一貫教育の充実・発展による目指す子ども像の実現 ・中学校区と組織的に連携し、義務教育9年間を見据えた指導を行うとともに、いわゆる中1ギャップに対応した学校	△	今年度は1年目でベースができた。成果とともに見えてきた課題があるので、しっかりと改善したい。保護者と情報を共有するために、取組の様子を適宜伝える工夫をする。	○	○
その他	⑩働き方改革の推進に向けた組織運営体制の改善・充実 ・子どもたちと向き合う時間の確保に努める学校	△	後期後半から始めた取組は効果があるのかを検証するとともに、先生方から意見を聞いたり先進的な事例を学び、子どもと向き合う時間の確保に努める。	○	○
	⑪先を見据えた管理体制の確立 ・子どもの安心、安全を確保し命を守る学校 ・いじめに対し未然防止や早期発見に取り組む学校	○	安全管理、職員の連絡体制、いじめへの対応は連絡を取り合い、組織的に迅速に動くことができていますので、次年度も引き続き行う。	○	○

学校運営委員の皆さんからこんな意見をいただきました

- ・校長、教頭を中心として、教育目標達成への職員の意志統一や実践が感じられました。その結果を評価したいと思います。
 - ・先生方は経営方針、教育グランドデザインに沿って、具体的な課題を浮き彫りにし、改善に向けた努力を重ねていると感じました。次年度以降も、学校の教育内容や取り組みがますます進化していくのではないかと思います。
 - ・B評価のついた⑩向き合う時間の確保の仕方の具体的な方策はあるのでしょうか。（もう充分されているようにも思うし、働き方改革の中での時間確保は事務の合理化や簡素化をもってなかなか難しいのではないかと思います。
- 11月にチームを作り会議を行い、できることから文書の電子配信や校務の電子化などを開始しました。保護者の皆様にも1月より協力してもらっていることも多くあります。